

Windows Server[®] 2008/2008 R2 Active Directory[®] 環境への ドメイン移行の考え方

第3.0版

2010年7月
富士通株式会社

改版履歴

改版日時	版数	改版内容
2008.7	1.0	新規作成
2009.3	1.1	ADMTによる移行方法の記載を一部修正
2009.6	2.0	Windows Server 2008 R2(RC)に対応
2009.9	2.1	Windows Server 2008 R2(RTM)に対応
2010.7	3.0	ADMT v3.2に関する記載を追加

目次

- はじめに
- 1章 2008/2008 R2ドメインへの移行のポイント
 - 1. 移行メリット
 - 2. 移行方法の種類
 - 3. 各移行方法のメリット・デメリット
 - 4. 2003ドメインからの移行パス
 - 5. 2000ドメインからの移行パス
 - 6. NT4.0ドメインからの移行パス
- 2章 2000/2003ドメインからの移行
 - 1. 移行方法選択の考え方
 - 2. 既存ドメインのバージョンアップ
 - 移行概要
 - 移行手順
 - 3. 新規ドメイン構築&アカウント移行
 - 移行概要
 - 移行手順
- 3章 NT4.0ドメインからの移行
 - 1. 移行方法選択の考え方
 - 2. 新規ドメイン構築&アカウント移行
 - 移行概要
 - 移行手順

はじめに

- 本書は、富士通PCサーバPRIMERGYを用いて、既存のWindowsドメイン環境をWindows Server[®] 2008/2008 R2 Active Directory[®] 環境へ移行する際の考え方・概要をご紹介します。

本書では、以下の略称を使用します。

正式名称	略称
Windows NT [®] 4.0ドメイン	NT4.0ドメイン
Windows [®] 2000 Server Active Directory [®] のドメイン	2000ドメイン
Windows Server [®] 2003 Active Directory [®] のドメイン	2003ドメイン
Windows Server [®] 2008 Active Directory [®] のドメイン	2008ドメイン
Windows Server [®] 2008 R2 Active Directory [®] のドメイン	2008 R2ドメイン
ドメインコントローラ	DC

(※)図表では、更に省略した表記を使用する場合があります。

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。

Microsoft, Windows, Windows NT, Windows Server, Active Directoryは、Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標または商標です。

1章 2008/2008 R2ドメインへの移行のポイント

1. 移行メリット
2. 移行方法の種類
3. 各移行方法のメリット・デメリット
4. 2003ドメインからの移行パス
5. 2000ドメインからの移行パス
6. NT4.0ドメインからの移行パス

1. 移行メリット

■ ドメインの論理設計がより柔軟に

- 読み取り専用ドメインコントローラ(RODC)や、きめ細かなパスワードポリシーの追加実装により、要件に応じた柔軟な対応が可能になります。

■ 運用の改善

- ドメインサービスのみの再起動が可能となり、ADのメンテナンス時にも同居している他サービスを止めずに済むなど、柔軟な運用が可能になります。
- ドメインオブジェクトへの変更操作のロギングを行う監査機能が強化されたことで、より詳細な監査が可能になります。
- Best Practices Analyzer(BPA)を利用したActive Directory、DNSの推奨構成の確認が可能になり、構成・設計ミスに起因するトラブルの未然防止に繋げることができます。

■ 管理性の向上

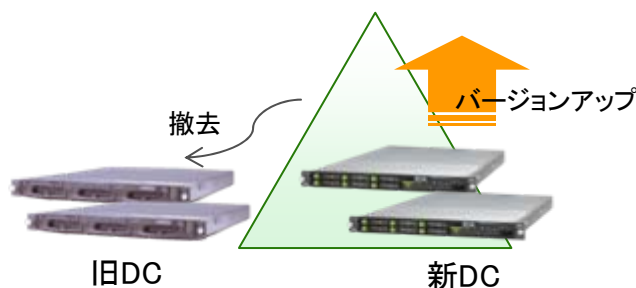
- サーバマネージャへの主要な管理ツールの統合や、Active Directory管理センターの導入など、ドメインの管理性向上を助ける改善が数多く為されています。
- 『属性エディタ』『ふりがなサポート』など管理ツールのインターフェースが強化され管理性が向上しています。
- PowerShellを利用したコマンドベースのActive Directory管理が可能になります。

※太字下線付きの機能は2008 R2から利用可能です。

2. 移行方法の種類

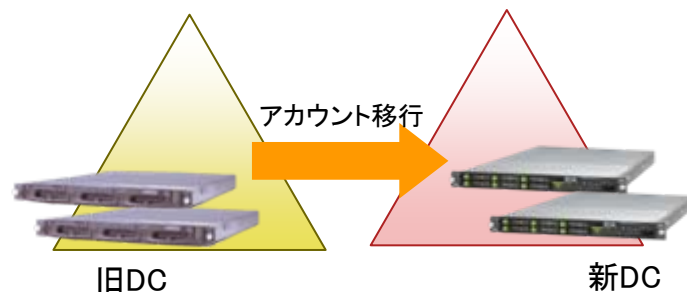
■ ドメインの移行には以下の2つの方法があります。

■ 既存ドメインのバージョンアップ



既存ドメインの構成、情報をそのままに、DCのリプレースを行うことでバージョンアップする方法です。

■ 新規ドメイン構築&アカウント移行



既存ドメインのアカウント情報を、ADMT^(※)を使用して新規構築したドメインへコピーする方法です。

※ADMT(Active Directory移行ツール)とは、既存ドメイン環境からWindows Server 2008/2008 R2 Active Directoryへの移行を簡単、安全、かつ高速に実現するツールです。

3. 各移行方法のメリット・デメリット

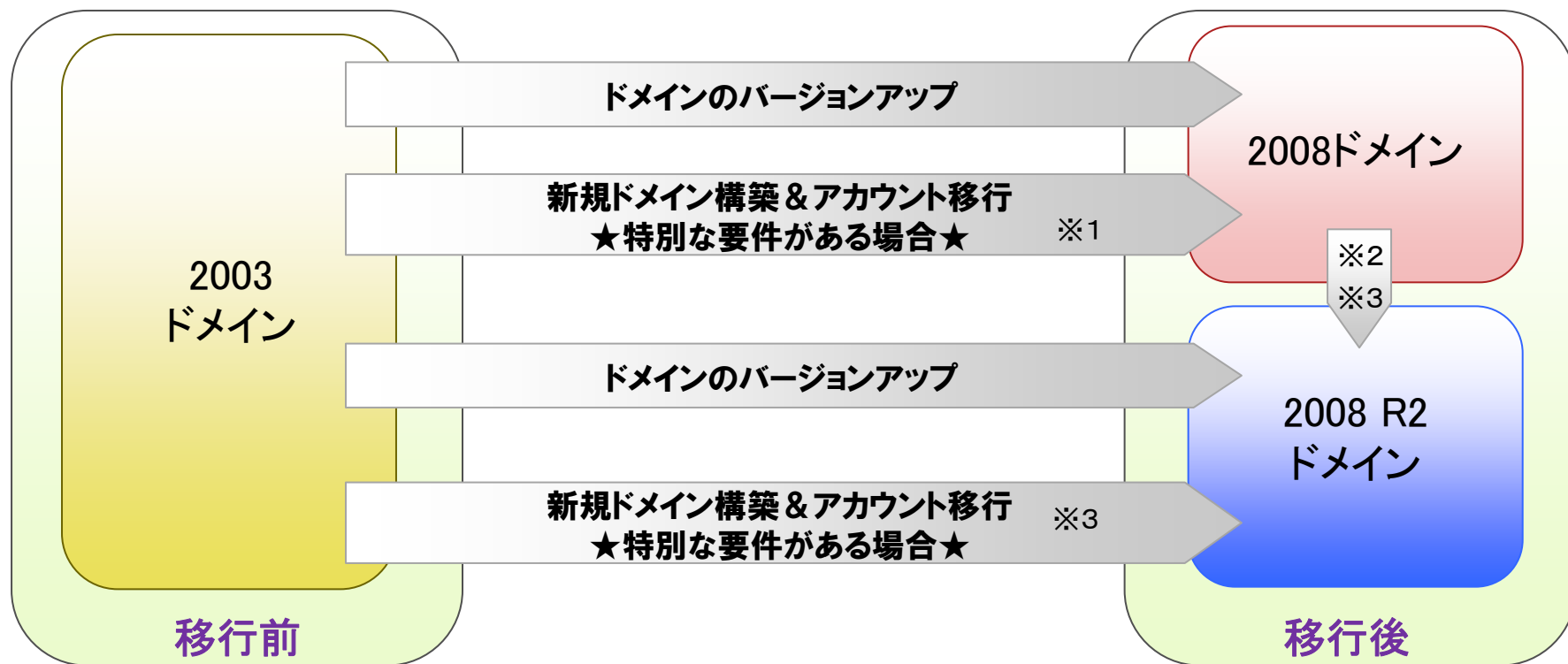
- 各移行方法のメリット・デメリットを理解し、要件に見合った方法を選択してください

- 既存ドメインのバージョンアップ
 - 既存ドメインのドメイン名やアカウント情報を完全に引継ぎ可能
 - クライアントPCのドメイン再参加作業が不要
 - ファイルサーバなどのアクセス権再設定作業が不要

- 新規ドメイン構築&アカウント移行
 - 既存ドメインのアカウント、グループ、権限等はツールで移行可能
 - 既存ドメイン環境を維持したまま移行可能なため、段階的な移行が可能
 - × ドメイン名が変更になるため、既存システムへの影響が大きい
 - × クライアントPCのドメイン再参加作業が必要となり、移行時のユーザ負担が増加

1章 2008/2008 R2ドメインへの移行のポイント

4. 2003ドメインからの移行パス

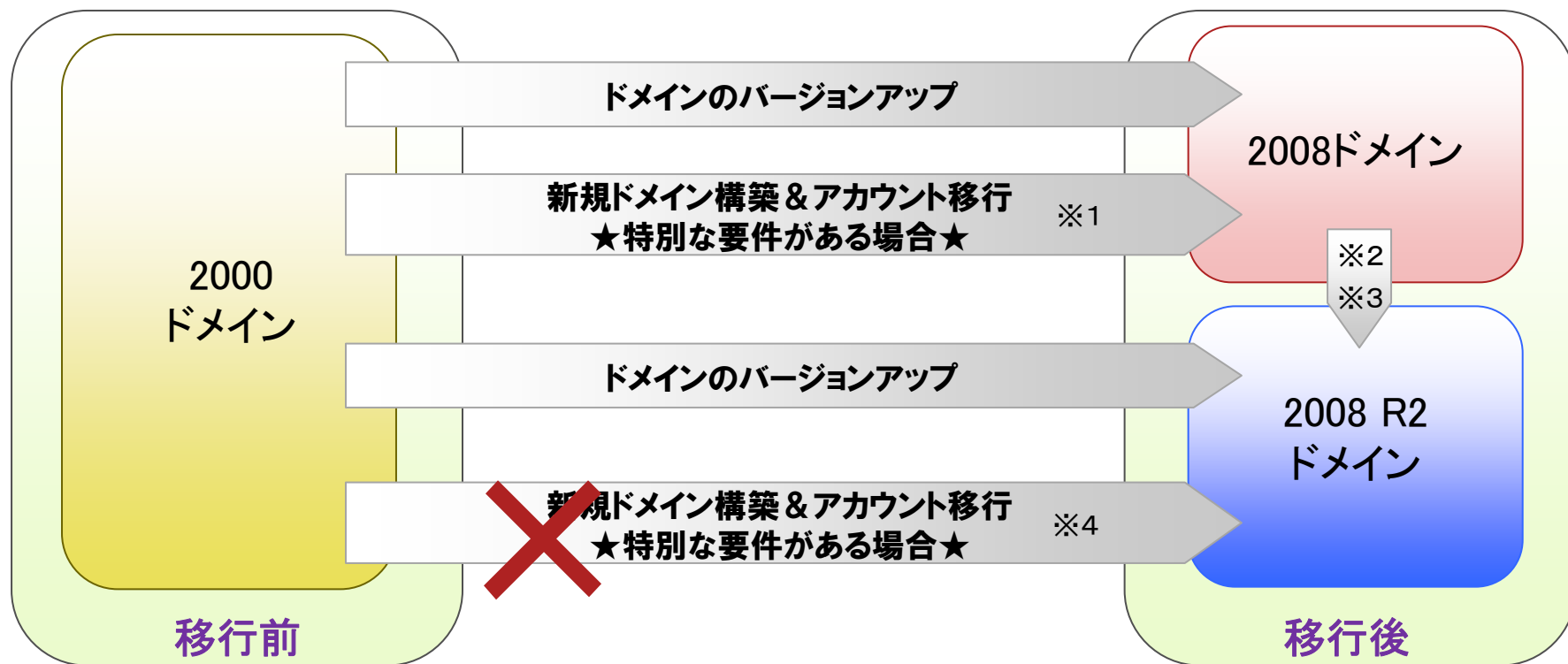


※1 2003ドメインから2008ドメインへの移行は、ADMT v3.1を使用します。

※2 本書では記載ませんが、2008ドメインから2008 R2ドメインへの移行は、2003ドメインからの移行と同様に2種類の移行方法があります。

※3 2008 R2ドメインへの「新規ドメイン構築&アカウント移行」には、ADMT v3.2を使用します。

5. 2000ドメインからの移行パス



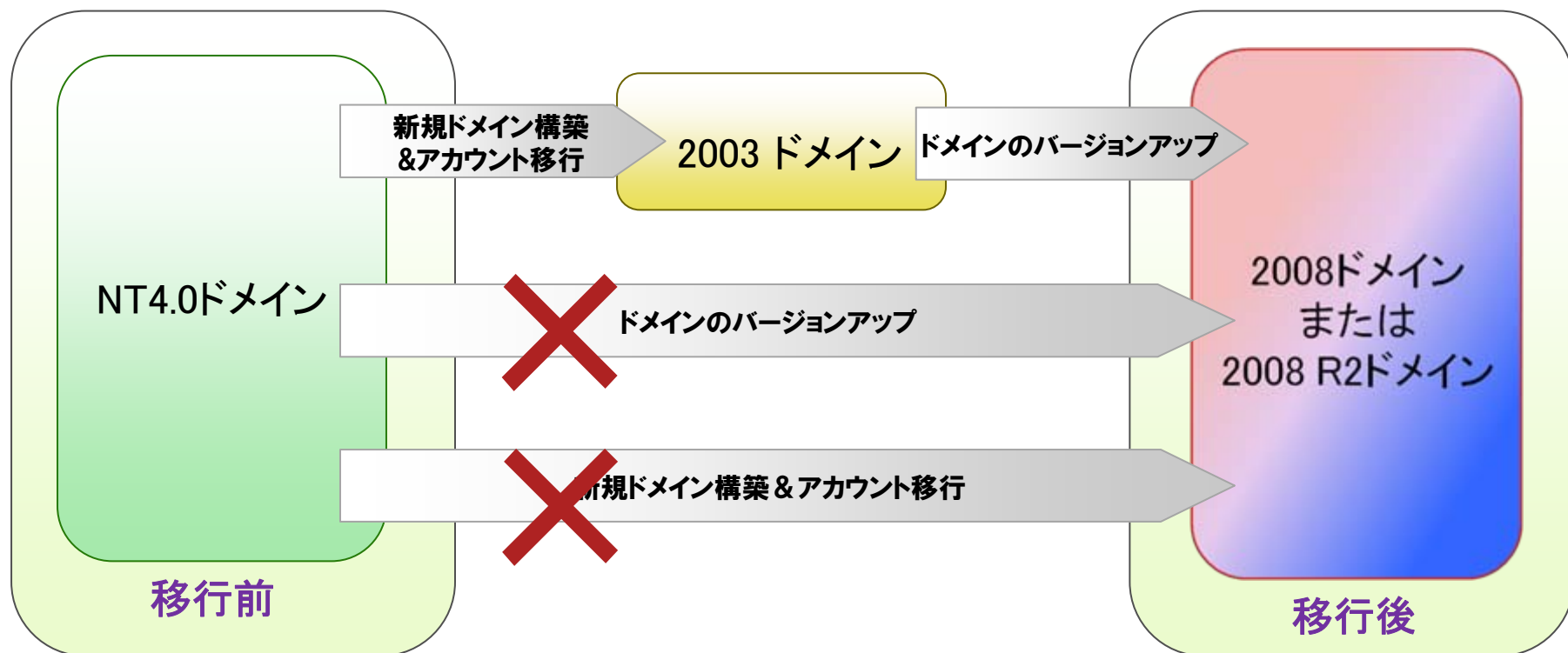
※1 2000ドメインから2008ドメインへの移行は、ADMT v3.1を使用します。

※2 本書では記載しませんが、2008ドメインから2008 R2ドメインへの移行は、2003ドメインからの移行と同様に2種類の移行方法があります。

※3 2008 R2ドメインへの「新規ドメイン構築&アカウント移行」には、ADMT v3.2を使用します。

※4 ADMTを使用した2000ドメインから2008 R2ドメインへの直接移行はできません。

6. NT4.0ドメインからの移行パス



※NT4.0ドメインから2008/2008 R2ドメインへの直接移行をサポートしていません。そのため、本書では2003ドメインを経由しての移行方法を紹介しています。

※NT4.0ドメインから2003ドメインへの移行は、ADMT v3.0を使用します。

2章 2000/2003ドメインからの移行

1. 移行方法選択の考え方
2. 既存ドメインのバージョンアップ
 - 移行概要
 - 移行手順
3. 新規ドメイン構築&アカウント移行
 - 移行概要
 - 移行手順

1. 移行方法選択の考え方

- 2000/2003ドメインからの移行は、“既存ドメインのバージョンアップ”を推奨します。

- 移行を機にドメイン環境を一新したい場合や、以下のような特別な要件がある場合には、“新規ドメイン構築&アカウント移行”を選択します。
 - 互換性確認が必要な既存サーバが多いため、既存ドメインを残しつつ、段階的に移行を行いたい。
 - M&Aに伴いドメイン環境を統合したいが、既存ドメインをそのまま使用したくない事情がある。

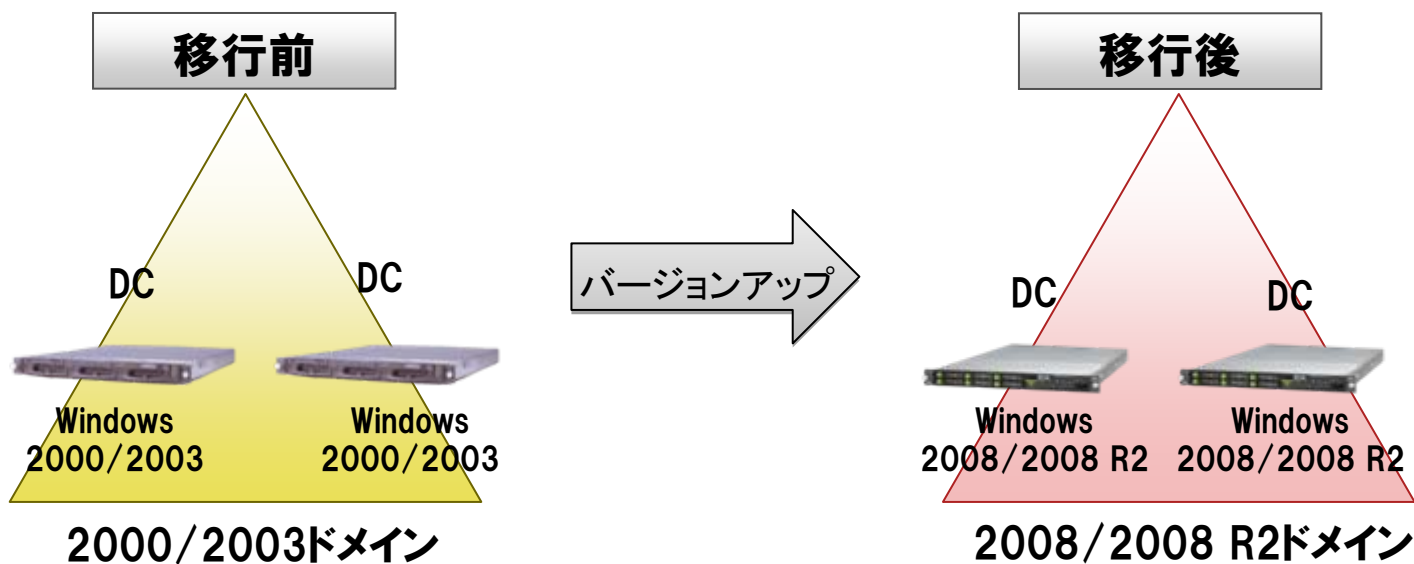
2. 既存ドメインのバージョンアップ(1/3)

■ 移行概要

既存ドメインの構成、情報をそのままに、ドメインコントローラのリプレースを行うことでバージョンアップする方法です。

以下の前提で移行手順をご紹介します。

- ▶ 移行前・移行後ともにDCは2台構成
- ▶ ハードウェアは新しいものにリプレース



2章 2000/2003ドメインからの移行

2. 既存ドメインのバージョンアップ(2/3)

■ 移行手順

1	FSMO ^(※) の役割を持つ既存DCでWindows 2000/2003 R2のDVDメディアを用いて、スキーマを拡張します。	
2	新規ドメインのDCとして使用するサーバ(新規DC)に、Windows Server 2008/2008 R2をインストールします。	
3	新規DCを既存ドメインのDCとして追加します。	

※特定の1台のDCが処理を実行する、特別な役割を「操作マスタ (FSMO:Flexible Single Master Operation)」といいます。

2章 2000/2003ドメインからの移行

2. 既存ドメインのバージョンアップ(3/3)

4	FSMOを新規DCに転送します。	<p>The diagram shows two server racks on the left labeled 'Windows 2000/2003 × 2台'. An arrow labeled 'FSMO' points from the top server of this group to the top server of a second group on the right labeled 'Windows 2008/2008 R2 × 2台'. Above the arrow, a small icon of a server rack is shown with the 'FSMO' label, indicating the role being transferred.</p>
5	既存DCをメンバーサーバへ降格します。	<p>The diagram shows two server racks on the left labeled 'Windows 2000/2003 × 2台'. Two orange arrows labeled '降格' (demotion) point from the top servers of this group to the bottom servers of the same group. On the right, two server racks labeled 'Windows 2008/2008 R2 × 2台' are shown, with one of them having the 'FSMO' role.</p>
6	機能レベルを“Windows Server 2008”もしくは“Windows Server 2008 R2”に変更します。	<p>The diagram shows two server racks on the right labeled 'Windows 2008/2008 R2 × 2台'. A green arrow labeled '機能レベル変更' (functional level change) points upwards from the top server of this group to the top server of a group on the left labeled 'Windows 2008/2008 R2 × 2台'. The top server of the left group has the 'FSMO' role.</p>

2章 2000/2003ドメインからの移行

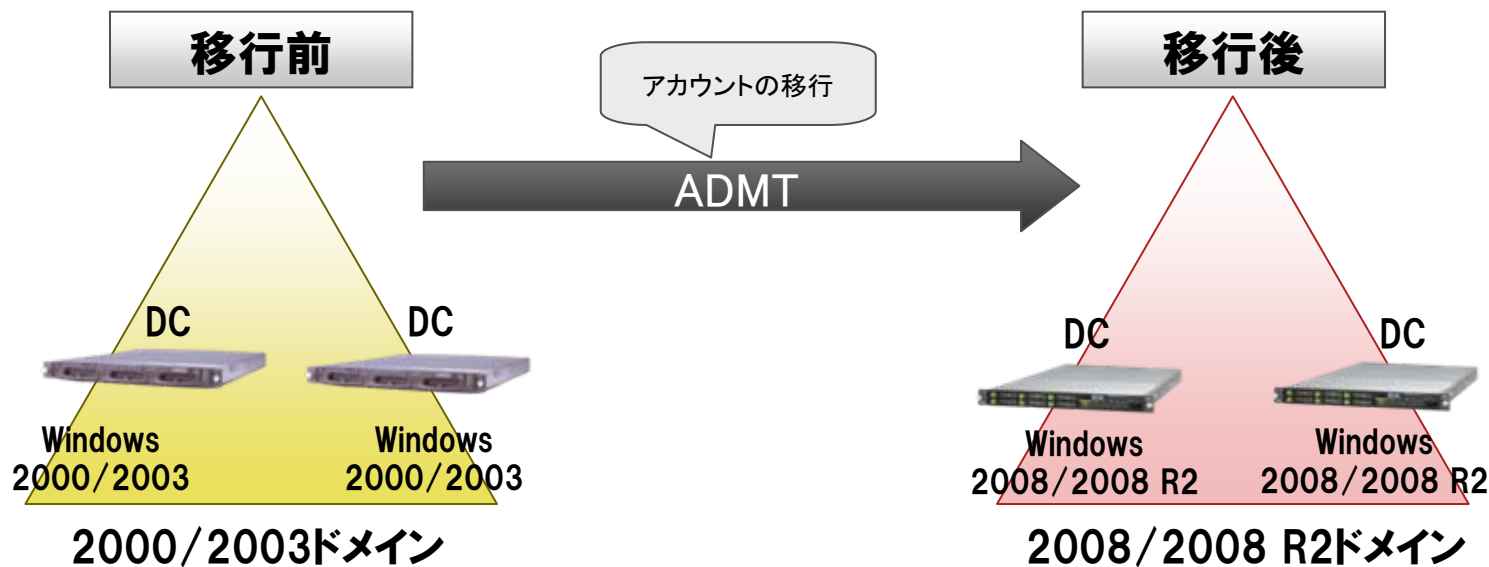
3. 新規ドメイン構築&アカウント移行(1/3)

■ 移行概要

新規構築した2008/2008 R2ドメイン環境に、既存2000/2003ドメインの情報をADMTを使用して移行します。

以下の前提で移行手順をご紹介します。

- 移行前・移行後ともにDCは2台構成
- 新規ドメインを別途構築し、既存ドメインのアカウントを移行



※2008 R2ドメインへの「新規ドメイン構築&アカウント移行」には、ADMT v3.2を使用します。

※ADMTを使用した2000ドメインから2008 R2ドメインへの直接移行はできません。

そのため、2000ドメインからの移行では、一旦2008ドメインを経由する必要があります。

2章 2000/2003ドメインからの移行

3. 新規ドメイン構築&アカウント移行(2/3)

■ 移行手順

1	新規に、2008/2008 R2ドメインを構築します。	
2	既存ドメインと双方向信頼関係を作成します。	
3	ADMTを使用し、既存ドメインから新規ドメインへ、アカウントの移行を行います。	

2章 2000/2003ドメインからの移行

3. 新規ドメイン構築&アカウント移行(3/3)

4	クライアント、メンバサーバ等のリソース移行完了後に、信頼関係を破棄します。	
5	既存ドメイン環境を破棄します。	

3章 NT4.0ドメインからの移行

1. 移行方法選択の考え方
2. 新規ドメイン構築&アカウント移行
 - 移行概要
 - 移行手順

1. 移行方法選択の考え方

- NT4.0ドメインから2008/2008 R2ドメインへの直接移行パスはありません。

⇒一旦2003ドメインを経由する必要があります。

Point!

NT4.0ドメインからの移行は、Windows Server 2003 R2メディアの入手が可能な今のうちに移行することを推奨します。

※Windows Server 2008/2008 R2のライセンスにはダウングレード権が付属しており、Windows Server 2003のライセンスとしても使用できます。

※富士通PRIMERGYではWindows Server® 2008 R2ダウングレードサービス付き製品を期間限定で提供しています。新しいDC用のサーバとしてPRIMERGYを採用する場合、Windows Server 2008またはWindows Server 2003 R2の媒体が同梱されており便利です。

- 経由する2003ドメインへの移行の考え方は、従来のNT4.0ドメインから2003ドメインへの移行に準じます。

3章 NT4.0ドメインからの移行

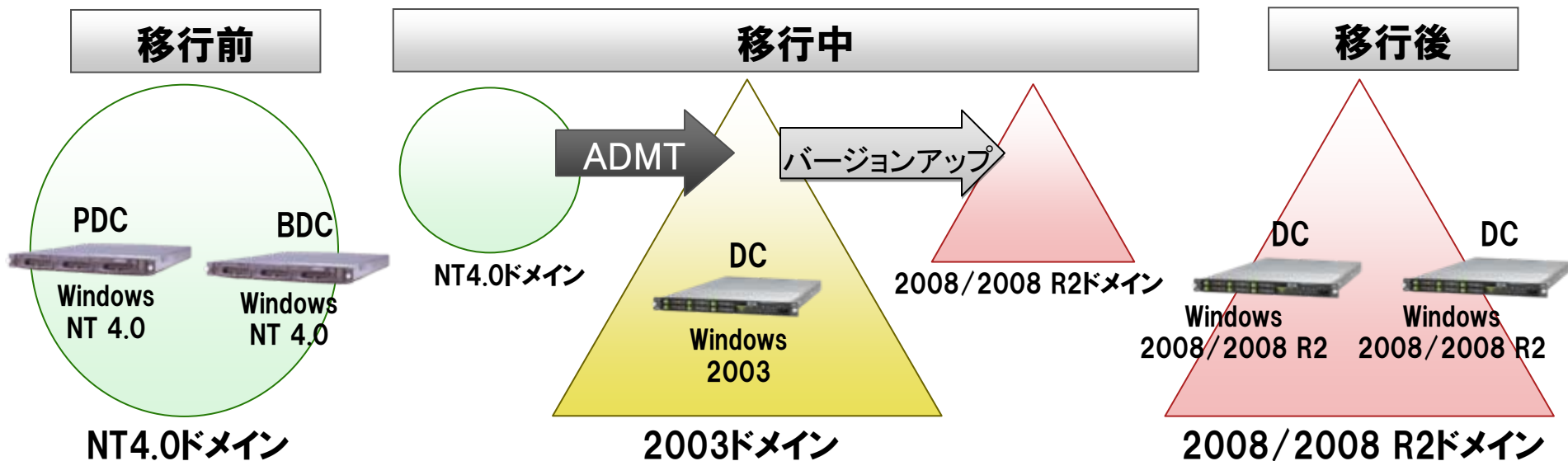
2. 新規ドメイン構築&アカウント移行(1/3)

■ 移行概要

新規構築した2003ドメイン環境に、既存NT4.0ドメインの情報をADMTを使用して移行します。続いて2008/2008 R2ドメイン環境へのバージョンアップ移行を実施します。

以下の前提で移行手順をご紹介します。

- 移行前・移行後ともにDCは2台構成
- 2003ドメインを経由して、2008/2008 R2ドメインへ移行



※ADMTによるNT4.0ドメインから2008/2008 R2ドメインへの直接移行はサポートされていません。

※NT4.0ドメインから2003ドメインへの移行はADMT v3.0を使用します。

なお、移行元のWindows NT 4.0 は、SP4以降の必要があります。

3章 NT4.0ドメインからの移行

2. 新規ドメイン構築&アカウント移行(2/3)

■ 移行手順

1	新規に2003ドメインを構築します。	
2	既存NTドメインと双方向信頼関係を作成します。	
3	ADMT を使用し、既存ドメインから移行用ドメインへアカウントの移行を行います。	

3章 NT4.0ドメインからの移行

2. 新規ドメイン構築&アカウント移行(3/3)

4	信頼関係を破棄します。	
5	2003ドメインから2008/2008 R2ドメインへ移行します。 (手順は“2章 2000/2003ドメインからの移行”を参照してください。)	
6	正常にドメインの移行が完了したことを確認し、既存ドメイン環境を破棄します。	

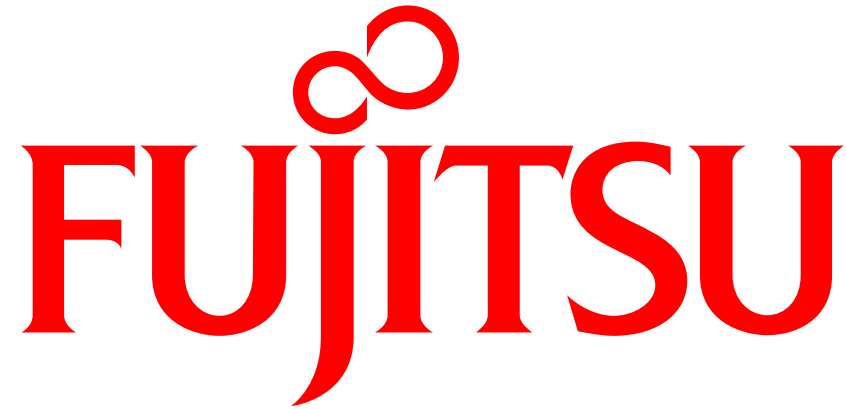
補足事項

■ ダウングレードについて

- Windows Server 2008/2008 R2のライセンスでは、ダウングレード権を使用して旧バージョンのWindows Serverをインストールして実行することができます。
- 旧バージョンのWindows ServerとWindows Server 2008/2008 R2を両方同時に使用することはできません(インストールして使用できるWindows Serverはどの時点でも常に一つだけとなります)。
- ダウングレード後は、いつでもWindows Server 2008/2008 R2に戻すことができます。
- ダウングレードに関する詳細情報は、以下を参照してください。

<マイクロソフト社>

<https://www.microsoft.com/japan/windowsserver2008/r2/downgrade-rights.msp>



shaping tomorrow with you